

社会福祉法人 練馬山彦福祉会

2024年度 事業報告

目次

法人	事業報告	1
山彦作業所	振り返り	4
	事業報告	5
やまびこ第二作業所	振り返り	9
	事業報告	10
ワークショップ石神井	振り返り	14
	事業報告	15
やまびこ三原荘	振り返り	19
	事業報告	20
3 相談支援事業所	振り返り	24
(山彦/第二/ワーク)	活動集計表	25
	事業報告	26
チャレンジワークやまびこ	振り返り	30
	事業報告	31

2024年度社会福祉法人練馬山彦福祉会事業報告

■2024年度を振り返って

2024年度の4月に報酬改訂がありました。職員数は、増えないままの運営なので、その分オーバーワークになり支援の低下につながらなかったか不安を感じながらのスタートでした。大きな出来事として、残念ながら法人内の施設において死亡につながる重大事故が発生しました。初めての事態に直面し戸惑いもありましたが、職員はご遺族の気持ちを最優先に考えながら失礼のないように努めました。また、関係者、東京都、練馬区、法人理事会等に報告・相談し、利用者が受けている心理的影響にも考慮し支援しました。今後も、利用者の方々の安全に十分配慮しながら、日々の支援体制の見直しと充実を図ってまいります。

法人では東京都の働き方改革を受けて社労士派遣事業を取り入れました。その結果、処遇改善費Ⅱ型からⅠ型に変更となり職場環境の見直しを行い給与の増額を図りました。

各施設ではバスレクやお祭りに参加し、徐々にコロナ前の生活に戻りつつあります。山彦作業所やワークショップ石神井ではバザーを復活させ、それぞれの施設で工夫を凝らしておこなう事が出来ました。

12月には法人主催の社会貢献事業として第3回目のフードパントリーを、やまびこ第二作業所の駐車場で行う事が出来ました。また、山彦作業所では「こども食堂」を行っている団体が事業をおこなうスペースを探しており山彦作業所の食堂を1月から初めて定期的にお貸ししています。

■ 2024年度の重点課題とそれに対する取り組み

1. 人材育成について

中長期計画や合同職員会議を通じて人材育成につながるような話し合いを重ねてきました。また、相談支援事業や就労移行事業の実践を通じて活動を共有し、支援の充実や人材育成につながる事が出来たのではないかと感じています。各施設を回っての研修は職員に余裕がなく実践に移す事は難しかったです。

人材育成に関しては以下の3点について力を入れて取り組んできました。

① 虐待防止研修に参加

各事業所の虐待防止担当者が、東京都の研修に参加し定期的な話し合いを持って2月19日に法人全体で練馬区から講師を招いて研修を行いました。練馬区福祉部障害者施設推進課事業計画係、眞保係長をお迎えして障害者虐待対応状況について講演して頂きました。その後、グループに分かれてケースを通じての事例検討を行い全体で報告し、共

有を図り今後の支援の対応の参考にさせて頂きました。

② 経験に応じた研修・法人内事業所研修

各施設では、常勤・非常勤を問わず職員が研修に取り組みましたが、職員不足の影響により、計画通りの実施が困難となった事業所もありました。研修の成果については、各施設内で職員間の情報共有を行いました。

一方で、法人内事業所研修については、職員の体調不良や家庭の事情などにより実施が叶わず、今後の課題として捉えております。

③ 新しい処遇改善加算・キャリアパスを考える

報酬改定により、新しい処遇改善加算が導入されました。その導入によって就業規則の変更を行い、職員一人一人の給与の引き上げをおこなう事が出来ました。同時にキャリアパス要件の明確化を図りました。

2. 中長期計画の策定について

各施設1名以上で月に1回の話し合いを継続しました。9月の理事会に中間報告をおこないました。その後、新体制でメンバーを増やして、業務の意義の確認をしながら具体的に outcomes について計画的にどう進めていくか話しあいました。今後も引き続き、会議の中で出ている具体案について掘り下げて考え実行に移していきたいと考えます。

(1) 相談支援事業所の在り方について

相談3所の今後についての話し合いを定期的に持ちました。月1回、第4火曜日に集まりを持つ事や毎週、月曜日にzoom会議を行ってきました。前回、事業日誌の統一をはかりましたが、今後は、統合後の事業体の形を検討しながら、今出来る事を統一していきたいと考えています。また、会議で各所を回る事により、その事業所の資料・業務関係の書類等も確認することが出来ました。今後も区とやり取りをしながら慎重に出来る事を進めながら取り組んでいきたいと思っています。

(2.) 就労移行の在り方について

就労移行支援事業所はワークショップ石神井のB型と多機能で開設し丸8年が経ちました。何とか不安定になりやすい制度的な仕組みを安定させられるように、いろいろ工夫しながら取り組んできました。次年度、始まる「就労選択支援」を取り入れながら、より健全な事業所のあり方を模索していきます。

(3.) 事業継続計画(BCP)の在り方を考える

昨年度、各施設で研修を受け継続して検討してきました。また、昨年度から感染症対策委員会を年4回定例化し各事業所でも感染予防の徹底化を今年度も図ってきました。引き続き今後は、法人全体での取り組みとして協力できることを確認し訓練等に活かしていきたいと考えています。

(4) 法人としての社会貢献事業を考える

昨年度に引き続き、11月に法人主催の「フードパントリー」をやまびこ第二作業所の駐車場で行いました。お天気も良く、前回より大勢の方にご来場いただきました。また関係機関の方にも多く協力を頂き、今後も継続できることを確認しました。また、山彦作業所の2階の台所にて1月から「こども食堂」を開催している団体に週に1回お貸しする事になりました。今まで手狭な場所でおこなっており、広い場所を探していたようでした。契約書等を取り交わし、順調におこなう事が出来たので、今後も継続して受け入れていきたいと考えています。

3 理事会、評議員会の開催状況について

2024年度 第1回理事会 2024年6月 5日（水）18：00～20:00

主な議案 決算報告 事業報告 内部監査報告 法人からワークショップ石神井への借入れ金について 相談支援事業所管理者手当と給与規定変更について等

2024年度 第1回 評議員会 2024年6月19日（水）18：00～20：00

主な議案 決算報告 事業報告 内部監査報告等

2024年度 第2回理事会 2024年7月29日（月）18：00～20：00

主な議案 補正予算について 中長期計画について 最低賃金の引き上げについて等

2024年度 第3回理事会 2024年11月 6日（水）18：00～20：00

主な議案 給与規定の変更について 補正予算について 職員のヒアリングについて等

2023年度 第4回理事会 2024年2月19日（月）18：00～20：00

主な議案 職員ヒアリングについて 非常勤職員の賞与について やまびこ第二の新所長について 補正予算等

2023年度 第5回理事会 2024年3月18日（月）18：00～20：00

主な議案 24年度事業計画について 23年度補正予算 24年度予算等

2024 年度山彦作業所事業の振り返り

■2024年度全体を振り返って

2024年度はコロナウィルス感染症の影響で止まっていた行事は形を変えて実施し、利用者と職員で充実した時間を共有することができました。

新入所者3名を迎え活発な作業所活動が行えました。弁当作業の安定した継続、下請け作業の依頼案件が増え、利用者の作業の幅を積極的に広げることで、工賃の向上につながりました。

■2024年度の課題とそれに対する取り組み

1.工賃額を上げていく

①支払い工賃額の平均を15,000円にする

2023年度に大幅に工賃額を上げることができ、2024年度も15,000円を目標に意欲的に作業に取り組みました。支払い工賃額の平均は17,169円となり、目標を達成できました。

②弁当作業の安定した継続

新メンバーの加入により衛生面の再確認等を行いました。安心、安全なお弁当を提供し関われるメンバーと職員を増やし、作業効率も上がり安定していました。

③自主製品、新規作業への情報収集

ビーズ作業を製品化(眼鏡ストラップ・髪留め・携帯ストラップ)し、販売を行いました。今後はビーズ作業や新規作業で、利用者の取り組める作業内容をさらに検討していきます。

④職員体制の整備(業務担当の複数化)

非常勤、常勤ともにジョブローテーションを組み、様々な作業支援を行いました。経験を積み重ね、業務担当の複数化を進めていきます。

2.利用者・職員にとって魅力ある場所にしていく

利用者の要望や希望を普段の関りや面談、連絡帳等から聞き取り、個別支援計画に反映させることができました。また多くの利用者が希望していた行事(バスレク・バザー等)を再開し、仕事と楽しみのメリハリをつけることにも繋がったと思います。

非常勤職員も含めた支援会議を、毎月第二水曜日に再開しました。利用者支援への情報共有、相談支援についての学習、研修報告、行事担当決め等行いました。

3. 1つの事にこだわりすぎない視野の広い人材を育成していく

各職員に合わせた研修を受講し、支援スキルの向上に努めました。関係機関、他事業所との連携、会議への参加は少なかったため引き続き課題となっています。虐待防止、BCP、感染症対策に関しては、担当職員からの資料や研修等を通して理解を深めることができました。また、職員同士が話しやすい、指摘しやすい関係や雰囲気全体で作っていけるよう引き続き努めていきます。

2024年度山彦作業所事業報告

1. 事業規模

■利用者■

(1) 入退所状況

入所者：男性3名入所(練馬特別支援学校卒業生)

(2) 性別・年齢別 ※平均年齢36.7歳(24年3月31日現在)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	3	5	6	3	2	1	20
女	0	4	2	2	6	0	14
計	3	9	8	5	8	1	34

(3) 障害支援区分

区分2→2名 区分3→6名 区分4→9名 区分5→3名 未取得14名

(4) 通所状況 各月平均通所人数、通所率(定員30名に対し)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平均通所者数	29.2人	31.1人	30.9人	30.5人	29.8人	31.5人
通所率(定員)	97%	103%	103%	101%	99%	105%
通所率(在籍)	85%	91%	90%	89%	87%	92%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均通所人数	31.3人	32.2人	29.8人	30.8人	31.7人	31.6人
通所率(定員)	104%	107%	100%	102%	105%	105%
通所率(在籍)	92%	94%	87%	90%	93%	93%

2024年度 平均30.8人

2. 支援内容

1 個別支援

個別支援計画作成においては事前面談と家族、利用者にアンケートを実施し、各々の課題や目標を明確にして計画に落とし込みました。また現場では個別支援計画をもとに本人の夢や希望、やりがいや生きがいを意識して支援に取り組みました。

半年を目途に中間まとめ、振り返りを実施し、それぞれの目標の達成度や現況の確認、必要に応じて支援内容を変更しました。また毎日記入するサービス提供記録にそれぞれの

個別支援計画の目標を貼り、アルバイト職員とも共有をはかりました。

所内での目標や課題を通して利用者の成長を感じながらも、長期的なところでは、将来の生活や家族、本人の高齢化という課題は変わらず見受けられました。家族からの相談や面談を通して関係機関と連携し引き続き、対応していきたいと思います。

3. 作業支援

	2024 年度	2023 年度	2022 年度
時給	60 円	60 円	60 円
平均工賃	17,169 円	16,386 円	11,199 円

1. 工賃支給

時給 60 円

工賃向上会議では、利用者の作業手当の見直しについて話し合いました。
夏季賞与、冬季賞与、年度末賞与と支給。

平均 17,169 円

2. 作業種目

- ① 磁石作業
- ② ダイレクトメール作業
- ③ 富士見台こぶし公園の清掃作業
- ④ 弁当配食作業
- ⑤ ビーズ作業（携帯ストラップ・ブレスレット・眼鏡ストラップ）

3. 作業環境、コロナ関連

定期的に作業場の配置を変更し、事故なく安全に過ごせる作業場を目指しています。
コロナに関しては、持病がある方や症状が訴えられない方もいるので、毎日の所内の次亜塩素酸での消毒や換気等は今後も続けています。

4. 生活支援

1 健康管理

- ・健康診断を 8-9 月に実施。
- ・今年度から新しい協力医療機関の練馬第一診療所にて行いました。

2 給食

給食負担額 1 食 350 円

・食べる楽しみを大切に考え、「栄養豊富で楽しい食事時間」を意識して献立の作成にあたりました。また「お楽しみ給食」を1ヵ月に1回実施し、利用者に好きな献立を選んでもうら取り組みを引き続き行っています。

・衛生面：定期的な清掃、害虫駆除業者：年2回実施。

3 行事

開催行事：辞令交付式 ミニ納涼祭 お疲れ様会 お楽しみ給食 お花見 小グループ活動（障害者フェスティバル・カラオケ） バスレク 地域交流事業

4 利用者自治会活動

1ヶ月に1度、自治会役員会議の開催と山彦ミーティングの企画・運営を行っています。施設長への賞与の要望書を出しています。

5、非常災害の対応

1 非常災害時の対応

- ・非常時対応マニュアルの策定
- ・避難訓練 利用者も参加の上、年2回実施しました。
- ・定期的に消防点検を実施（電気設備も定期的に点検）
- ・防災対策 水・簡易食料・毛布・ラジオ・発電機等、災害時を想定し準備
- ・夜間監視業務 総合警備保障（株）による夜間機械警備（事務所）
- ・地域の避難場所への経路確認の実施（2回）

6、苦情解決・虐待防止・身体拘束適正化

当事業所における苦情の受付や相談窓口の連絡先等、虐待防止・身体拘束適正化に関する書類を利用者に分かりやすく掲示しました。

- ・作業所お茶提供に関しての苦情が1件あり

7、運営

1 会議

- ・法人全体職員会議は、毎月第二水曜日に合同で実施しました。
 - ・山彦作業所支援会議は、毎月第二水曜日に職員・アルバイト職員で実施しました。
 - ・給食会議は、毎月第一月曜日に栄養士・調理師・職員で実施しました。
- 所内会議、支援会議は支援計画の確認や情報の共有、行事等の支援体制の確認のため必要に応じて実施しました。

2 虐待防止

- ・別途定める「虐待防止マニュアル」に則り、利用者の人権を最大限に尊重し、適切な事業運営をおこないました。また法人虐待防止委員会を中心に、各所に研修担当を置

き、法人内研修を実施しました。

3 広報・情報公開

- ・作業所や法人、利用者、障害者を取り巻く社会情勢など広く知って貰うことを目的に機関誌「もうんてんえこお」を定期的に発行。

4 家族会

- ・今年度も6月に実施。ご家族18名・利用者23名が参加しました。ご家族が話しやすい環境を意識しました。作業所状況等、活発な意見交換ができたと思います。家族会開催中、利用者はカラオケを行い、普段、利用者が家にいる為、家族会に参加できないご家族も参加する事ができました。

5 地域との連携 実習生受け入れ

- ・5年ぶりに地域交流事業（バザー）約80名の集客
- ・石神井地域法人ネット会議に参加
- ・こども食堂「かめさん食堂」に2階厨房施設を貸出
 - （ア）練馬特別支援学校3年：1名
 - （イ）練馬特別支援学校2年：2名 集団実習生徒8名 教員3名参加
 - （ウ）練馬特別支援学校1年：2名

6 福祉サービス第3者評価

- ・福祉サービス第3者評価を受審し、結果を公表しました。

◇特に良いと思う点◇

- ①地域への情報発信に努め、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進めている。
- ②高齢・虚弱化した利用者が事業所で作業が続けられるように細分化等工夫されている。
- ③働くこと→工賃獲得。豊かな地域生活につながる事を利用者に伝えていること。

◇さらなる改善が望まれる点◇

- ①今後の事業の担い手を育成するため、人事考課の仕組みを見直す等取り組みに期待する
- ②BCPの内容を職員が理解できるように、訓練に盛り込む等、安全対策を期待する。
- ③今後、一緒に働く職員へ向けた業務標準化への仕組みづくりに期待する。

調査員からの講評を基により良い事業運営を行っていきます。

7 職員の研究・研修体制（2024年度主な実施研修）

- ・ダウン症の特性と支援方法 ・強度行動障害研修（基礎・実践）
- ・てんかん基礎講座 ・経営者研修 ・虐待防止研修（管理者）
- ・サービス管理責任者更新研修 ・障害者の意思決定支援研修 ・知的障害者を理解する
- ・合理的配慮共生社会実現研修
- ・法人内虐待研修

2024年度やまびこ第二作業所 事業の振り返り

■2024年度全体を振り返って

地域に作業所が少ないという背景から、視覚障害、性同一性障害、依存症、知的障害など対象が広がり、これまで以上に多様な支援が求められています。地域の関係機関からも多様な障害に対応する役割を求められ、より丁寧な支援を心がけていきたいと思えます。

コロナ以降、作業時間の回復が遅れ、受注量の不足や体力面での懸念も影響しています。また、約2年前の時給引き上げと利用者増により工賃残高が減少したため、年度末手当を見送り、次年度は時給を元の水準に戻すこととし、利用者へは文書と口頭で説明しました。

就労支援は十分に進まず、引き続き利用者が希望を持てる支援を目指してまいります。なお、今年度も介護サービスへ移行された方があり、高齢者分野との連携の必要性を感じています。

■2024年度の課題とそれに対する取り組み

1. 支援の充実

・自己表現スペースの設置と相互理解へつながるような働きかけ

自己表現の場として、利用者の作品を展示するスペースを設け、利用者の作品展示を通じて交流のきっかけづくりを行いました。また、バスレクを2回実施し、楽しみにする声や普段と異なる表情が見られる良い機会となりました。

・家庭訪問・同行通院による理解と関係機関との連携

必要に応じて関係機関と連携し、家庭訪問や同行通院、ケースカンファレンスを行いました。ご家族との関係性も深まり、ご本人の状況把握や医師への情報共有にもつなげました。精神的に不安定な時期には、人間関係の悪化につながる懸念もあったため、主治医へ状況を共有し、より良い方向へ進めるよう努めました。

・生活習慣病予防に向けた日常的な働きかけ

生活習慣病が懸念される利用者へ個別に対応し、健康への意識づけに努めました。健診結果を踏まえ、次年度は早期の学習会実施を検討しています。

2. 作業支援の充実

利用者が主体的に関われるよう工夫を進める中で、職員が関わりすぎることで、かえって利用者の力を活かす機会を狭めていたのではないかと気づかされました。作業に戸惑う利用者に対して、助け合う姿も見られ、温かな関係性が感じられました。むさしの広場公園でのトイレ清掃は特定の利用者に偏っており、今後は対応できる利用者を増やしていけるよう工夫していきます。

3. 地域とのつながり

11月に作業所駐車場でフードパントリーを実施し、利用者と共に周辺へビラ配りを行いました。移転3年目を迎え、地域に作業所を知ってもらいたい良い機会となりました。

2024年度やまびこ第二作業所事業報告

1. 事業規模

■利用者■

(1) 入退所状況

入所 6名

退所 (Aさん:24年7月18日付:自宅療養)

(Bさん:24年9月13日付:他事業所へ)

(Cさん:25年2月14日付:介護事業所へ)

(2) 性別・年齢別 ※平均年齢48.9歳(25年3月31日現在)

	20代	30代	40代	50代	60代	80代	計
男	2	3	4	7	5	0	21
女	0	4	4	4	1	1	14
計	2	7	8	11	6	1	35

(3) 障害支援区分

区分2→8名 区分3→5名 未取得22名

(4) 通所状況 定員30名に対する通所率、在籍者数に対する通所率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平均通所者数	18.6人	17.9人	19.2人	20.5人	20.1人	20.2人
(定員)通所率	62.0%	63.3%	64.0%	68.3%	67.0%	67.3%
(在籍)通所率	56.4%	53.0%	56.5%	57.3%	57.0%	57.0%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均通所者数	19.0人	20.2人	20.8人	20.5人	19.7人	18.1人
(定員)通所率	63.3%	67.3%	69.3%	68.3%	65.6%	60.3%
(在籍)通所率	54.0%	56.1%	57.6%	57.0%	54.6%	51.6%

2024年度 平均19.6人 (定員)通所率65.3% (在籍)通所率55.7%

2. 支援内容

1 個別支援

1) 個別支援計画

利用者の願いや思いを十分に反映できるよう、計画の作成時には本人との面談を実施しました。また、中間見直しや振り返りの面談も行い、本人の意向や変化を確認しながら、

次年度の計画につなげています。

2) ケース記録の整理と活用

利用者一人ひとりの状況について、日々確認を行い、記録しています。ケース記録は、個別のケースで支援に迷う場面での振り返りや、個別支援計画の作成時、また支援会議等において有効に活用しています。

3) 関係機関との連携

日頃の関係機関との連携はこれまで通り維持できています。特に併設の相談支援事業所とは密接な連携体制で支援の充実を図っています。

3. 作業支援

※2023 年度から新計算方式

	2024 年度	2023 年度	2022 年度
時給	240 円	240 円	220 円
平均工賃	18,464 円	23,121 円	14,364 円
平均通所者数	19.6 人	17.8 人	16.7 人

1 工賃支給

・支給にあたっては、事前に会計内容の説明を実施し、あわせて作業場内に内訳表を掲示することで、利用者への情報共有および透明性の確保に努めました。

夏季・冬季の賞与については支給することができましたが、年度末手当については、工賃会計の残高不足により支給を見送る対応となりました。その際には、利用者へ書面および口頭での説明を行い、理解を得られるよう配慮しました。

・労働者としての観点から有給休暇・残業手当について引き続き対応・支給を行っています。

2 作業種目

⑥ 下請け作業（ダイレクトメール等の封入封かん等/紙折り等）

⑦ 公園清掃（むさしの広場公園・ゆたか公園一週3回）

⑧ 資源ごみリサイクル作業（地域の方からいただいたアルミ缶、古紙等の納品）

3 作業環境

・1週間ごとの作業予定を事前に確認し、作業場内に掲示することで、利用者にも見通しを持って作業に取り組めるよう配慮しました。

・作業の進め方については、同じテーブルで協力しながら取り組める形をできるだけ取り入れました。作業を通して、挨拶や声かけなどのコミュニケーションを大切に、関わりができる環境づくりに努めました。また、これまで職員が担っていた部分についても、利用者が自発的に取り組めるよう工夫を重ね、役割を広げていきました。その中で、想像以上に利用者一人ひとりの力が発揮され、そのことが大きな気づきとなりました。

・むさしの広場公園においては、現在トイレ清掃を実施していますが、同じ利用者が担当することが多く、今後はこの作業に対応できる利用者を増やしていくことが課題となっています。

4、生活支援

1 健康管理

・練馬第1診療所にて健康診断を12～1月に25名実施。
・高血圧、高脂血症、高血糖等の生活習慣に起因する健康課題を抱えている利用者が多見受けられました。

2 行事

バスレク①11月「成田航空博物館見学」27名参加（内、利用者20名）

②2月「小田原城見学」27名参加（うち利用者20名）

ハロウィーンを楽しむ会、クリスマス会

レクリエーション活動を通じて、普段の作業中にはあまり見られない利用者の表情や、利用者同士の自然な交流が見られました。こうした機会を通じて、仲間づくりや人間関係の広がりが見られることの大切さを改めて感じました。今後も、楽しみながら交流できる場を大切にしていきたいと考えています。

5、非常災害の対応

1 非常災害時の対応

・非常時の対応	「事業継続計画」の研修に参加・策定しました。
・避難訓練	利用者も参加の上、3事業所合同で年2回実施しました。
・防災対策	水・簡易食糧・毛布等の準備をしました。
・夜間監視業務	警備会社による夜間機械警備
・地域の避難場所への経路確認の実施	

6、運営

1 会議

・法人全体職員会議は、毎月第2水曜日に合同で実施しました。
・所内会議・支援会議は支援計画の確認や新規入所者の情報共有、検討事項等を必要に応じて話し合いました。

2 苦情解決・虐待防止・身体拘束適正化

・別途定める「虐待防止マニュアル」に則り、利用者の人権を最大限に尊重し、適切な事業運営をおこないました。また法人虐待防止委員会を中心に、各所に研修担当を置き、法人内研修を実施しました。また、当事業所における苦情の受付や相談窓口の連絡先等・虐

待防止・身体拘束適正化に関する書類を利用者にわかりやすく掲示しました。

3 広報・情報公開

- ・機関紙「もうんてんえこお」編集委員に担当者1名が定期的に編集会議を行いました。

4 家族会

・ご家族と直接お会いする形での面談や交流の機会は、タイミングの都合により実施できませんでしたが、作業所での活動の様子をお伝えするため、写真を多く使用したお手紙を作成し、各ご家庭へ送付いたしました。今後も、ご家族とのつながりを大切にし、情報共有に努めます。

5 地域との連携

- ・地域会議には積極的に参加する事が出来ませんでした。
次年度以降の課題とし、計画的に参加できるように対応していきます。
- ・地域交流事業
地域の方や関係機関の方から寄付の品物をいただき、フードパントリーを開催しました。作業所の活動を地域の方に知っていただき、貴重な機会となっています。

6 学生の見学・ボランティアの受け入れ

・1月には、首都医校の看護学生の実習受け入れを行いました。学生との関わりは、職員にとっても良い研修の機会となり、日頃の支援を振り返る機会ともなりました。また、利用者からも学生に話をしてもらい、作業場全体に活気が広がるとともに、適度な緊張感が生まれるなど、良い刺激となりました。

- ・ボランティア受け入れ 3名

7 職員研修

- ・サービス管理責任者基礎研修
- ・相談支援従事者初任者研修
- ・障害者虐待防止・権利擁護研修
- ・法人内虐待防止・身体拘束適正化研修
- ・「人権ってだれのもの？」

■2024年度全体を振り返って

2024年度は前年度に受審した第三者評価結果や利用者アンケートを参考に、利用者同士の交流をさらに深めるため、練馬区のボッチャ大会への参加や5年ぶりにバザー（わくわくフェスタと名称変更）とバスレクを実施しました。特にバスレクは悪天候の中となりましたが、初参加6名を含む、14名の参加利用者全員が大きなトラブルなく楽しんで帰ってくることができました。また新型コロナウイルス禍で中止が続いていた家族懇談会も5年ぶりに開催することができました。参加ご家族が4名と小規模な会とはなりましたが、その結果としてアットホームな雰囲気で開催することができ、利用者の普段の様子をスライドショーにてご覧いただくこともできました。

工賃向上に関しては、24年度目標平均工賃月額としていた「10,772円」を上回る「10,962円」の工賃を支給することができました。取引先企業からほぼ途切れることなく作業を受注できたことや、自主製品の取組を推進して売上を増加できたことが結果につながりました。

運営面では、事業所内で死亡につながる重大事故が発生してしまいました。事故発生後にご遺族の気持ちを最優先に考えて誠実に対応をしました。また、東京都の実地調査の改善指摘事項を踏まえ、今後は二度と同様の事故が起こらないように取り組んでいく必要があります。

■2024年度の課題とそれに対する取り組み

1. 高齢化や障害の多様化により長い時間働く事が困難な人が増えている

→従来の健康増進プログラムの継続や新規プログラム導入を目標と設定して取り組みました。結果として、新しくボッチャというユニバーサルスポーツを事業所内で計2回、事業所外でも計2回実施することができました。足腰に不安を抱えている人も楽しみながらスポーツを行うことができました。

2. 利用者のやりがいや成長につながる作業を用意し、結果として工賃増を図る

→自主製品販売会に5回以上参加するという目標を設定して取り組みました。結果として受注作業を減らすことなく自主製品販売会に合計5回参加し、さらに新規の取組として練馬区役所内カフェの展示販売に2カ月間自主製品を置かせてもらうことができました。

3. 感染症や大規模震災に備えたBCPの計画的運用

→BCPや各種マニュアルの整備改善を図ることを目標に取り組みしました。24年度は事業所内で転倒事故が発生してしまったため、事故対応マニュアルの見直しの一環として「体調不良者の対応マニュアル」を新規で作成しました。また、災害対策としては、計画的に法人の感染対策委員会に参加し、事業所内でもBCP訓練（災害、感染対策）を実施しました。

2024年度ワークショップ石神井事業報告

1. 事業規模

■利用者■

(1) 入退所状況

	5月	8月	10月	11月	2月
入所者数	1			1	1
退所者数		1	1		

・3名入所 ・2名退所（就労 0名 他事業所1名 死亡1名 長期入院0名）

(2) 定員および現員（2025年3月31日現在）

・定員…30名 現員33名（男性24名 女性9名）

(3) 性別・年齢別 (人)

	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	1	2	3	12	6	24
女	0	2	1	3	3	9
計	1	4	4	15	9	33

・平均年齢 53歳

(4) 入所 問い合わせ 見学 (名)

2024年度	29	12
2023年度	21	6

(5) 通所状況（定員30名に対し） 1日平均通所者数、通所率、稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平均通所者数	16.5人	16.1人	15.4人	16.1人	15.6人	17.0人
稼働率	57.2%	53.8%	51.3%	53.6%	54.5%	56.6%
通所率	51.7%	50.4%	46.6%	48.7%	47.2%	53.3%
在籍者	32	32	33	33	33	32
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均通所人数	14.7人	16.0人	16.4人	16.2人	17.9人	17.4人
稼働率	50.8%	53.4%	54.5%	54.0%	59.6%	58.0%
通所率	45.7%	51.7%	51.0%	50.6%	55.9%	52.7%
在籍者	32	31	32	32	32	33

2024年度… 平均通所者数16.3人

2023年度… 平均通所者数17.5人

2. 支援内容

1 個別支援

- ・利用者と面接を行い作業所や将来についての希望や意向、状況を把握し「個別支援計画」を作成して支援を進めました。半年後に中間面接を行い、目標と支援内容を再確認しました。また、利用者への支援に関して関係者と連携を取りながら進めました。
- ・全ての利用者に対して、定期面談以外でも必要に応じて面談や関係者と連携して支援を行いました。また、事業所内で転倒事故に遭ってしまった利用者に対しては、事故が起きる前から家族、関係機関と情報共有しながら支援をしていました。そのため、事故後も継続して連絡を取り合いながら、少しでもサポートできることはないかと考えて対応しました。

3. 作業支援

利用者個々人の能力や特性を把握し、得意分野を伸ばし、苦手分野を補えるようにチームワークの向上を目指しました。また、前年度に工賃向上経営コンサルタントから受けた助言に従い、工程を細分化するなどの改善を図り、自主製品作りに関わる利用者人数を増やすことができました。

<目標工賃>

目標平均月額額 10,772 円に対して 10,962 円でした。

<工賃内訳>

	2024年度	2023年度
平均時給額	174円	145円
平均工賃額	10,962円	10,243円

※2023年度より新計算法式で平均工賃月額を算定

1 作業種目

(1) ダイレクトメールの封入作業

2024年度も定期的に封入作業を受注することができました。新規メンバーには慣れるまでは個別に説明を行い、既存メンバーにも新たな作業工程を任せるなどの支援を行いました。

(2) 各種商品パック詰め

2024年度になり先方の都合で作業自体が終了しました。

(3) サンプルシール貼り

2024年度になり先方の都合で作業自体が終了しました。

(4) 農福連携事業

前年度までに引き続き、毎週水曜日の午前中にブルーベリー農園の農作業を約3名で継続的に行いました。

(5) 自主製品

2020年度より本格的にスタートした毛糸のリースやナチュラル雑貨等の自主製品を、販売イベントに積極的に参加して販売しました。また新たな取り組みとして、山彦作業所と

Ⅳワークショップ石神井のバザーに自主製品で出店したことと、練馬区役所内にあるカフェの展示販売の取組に参加しました。

2024 年度自主製品売上	2023 年度自主製品売上	2022 年度自主製品売上	2021 年度自主製品売上
146,580 円	141,505 円	63,650 円	40,900 円

(6) 東京都・練馬区共同受注

練馬区共同受注の仕組みから新規で1件、ハガキへのラベル貼り作業 25000 件を受注することができました。また、2023 年度から登録している東京都共同受注窓口からは、前年度に引き続き練馬区内の駐車場清掃を 2024 年度も受注することができました。

(7) 外勤作業

昨年度までに引き続き1カ所のアパート清掃を請け負いました。3 名でローテーションを組み、2 人1組でアパート清掃を行いました。

4、就労支援

2024 年度は就職活動をした利用者はいませんでした。専門的な就労支援を希望する利用者1名に対して、家族や関係機関と連携しながら他法人の就労移行支援事業所につながる支援を行いました。

5、生活支援

1 学習会（絵画 自主製品）

生活の幅を広げて楽しみをつくることを目的に、作業以外のことを行う時間を月に1回設けて、絵画と自主製品作りを行いました。絵画に関しては、デッサン用の見本を増やすなどの工夫をしました。

2 余暇活動

新型コロナウイルス感染禍で、中止していた日帰りバスツアーを5年ぶりに実施しました。さらに、事業所内でのボッチャレクや地域のお祭りに参加することもできました。

3 地域交流活動

新型コロナウイルス感染禍で中止していたバザーを「わくわくフェスタ」と名称変更しながら5年ぶりに実施しました。フェスタでは地域の3団体も招いて共催したため、より地域交流を深める機会となりました。

4 健康管理

毎朝、仕事開始前にビデオを使って体操を行いました。

練馬区障害者施策推進課が行う福祉施設健診を利用し、1 月に利用者の健康診断を実施しました。また、練馬区主催の福祉施設ボッチャ大会に参加し、予選リーグを1位突破することができました。

5、非常災害の対応

1 非常災害時の対応

1 非常時の対応 BCP（感染症対策・自然災害対策）に沿って対応。

2 避難訓練 2025年3月25日 実施

3 総合防災訓練 2024年9月 3日 実施

4 防災設備 定期的に消防点検を実施

- 5 防災対策 水・簡易食料・毛布を準備
- 6 夜間監視業務 警備会社による夜間機械警備

6, 運営

1 会議

今年度も、朝夕の会議を常勤・非常勤職員合同で行い利用者支援の向上や業務効率の改善に努めました。

日々の活動の点検や改善、事業計画の実施を図るため、必要に応じて会議を行いました。また、月に一度、練馬山彦福祉会内で行われる合同職員会議に参加しました。

法人の中長期計画策定委員会に、管理者と主任が参加して取り組みました。

2 苦情解決・虐待防止・身体拘束適正化

苦情解決・虐待防止・身体拘束適正化に関する書類を利用者の目の届きやすい入口付近に掲示しました。また、苦情解決第三者委員会・虐待防止、身体拘束適正化委員会に管理者が参加し、事業所内で実施した虐待防止チェックリストの報告等を行いました。委員会後には、全職員に内容を共有しました。

3 広報活動

定期的に広報誌まうてんえこお編集会議を行いニュースの発行を行いました。

4 家族懇談会

2025年3月24日に実施（参加ご家族4名）

5 地域関係機関と連携

- ・区主催の関係者会議へは、チャレンジワークやまびこ職員と分担して参加しました。
- ・ういんぐ運営委員会と練馬区精神障害者作業所連絡会に管理者が参加しました。
- ・きょうされんは、全国の作業所と共同の運動や研修・交流を深めることを目的に参加。
- ・事業内容の充実をはかるために、やまびこの会後援会と連携し、フードパントリーに職員が参加するなどの活動をしました。

6 福祉サービス第三者評価

2023年度実施。次回は2026年度予定。

7 研修

- ・研修計画を作成し、常勤・非常勤職員全員がそれぞれに合った研修に参加しました。

研修内容	主催者	参加者
法人虐待防止・身体拘束適正化研修	練馬山彦福祉会	全職員
東京都経営管理研修	東京都	管理者
精神保健福祉講座「精神科医から学ぶメンタルヘルス」	ういんぐ	非常勤3名

2024年度やまびこ三原荘の振り返り

■2024年度全体を振り返って

今年度三原荘では人事異動があり新しい体制でスタートしました。これまで新型コロナの影響で中止していた外出レクリエーションを5年ぶり行い、それぞれに楽しかったとの感想を得ました。しかし、重度化や高齢化もあり今後できるだけ多くの人が楽しめるよう工夫していく必要を感じました。

入居者では2階フロアの空室が長期間続きました。関係者に連絡し見学者は来てくれるが、入居にいたらなかったです。また、非常勤職員の募集を行うが条件が合わず採用できていません。今後の課題として三原荘の良さをアピールしていくことが大切だと感じています。

急激な物価の高騰により三原荘もその影響を受け、特に米・食材や調味料など食品関係すべてのものが上がり、調理職員の方々もいろいろと工夫をしましたが、対応しきれない状態となっています。また、価格が元に戻る気配も見えない状況が続く中、特に年金で生活されている入居者への影響が懸念されましたが、検討を重ね、やむを得ず食事代を値上げすることとなりました。

■2024年度の課題とそれに対する取り組み

1 入居者の重度化と高齢化に対する職員の人手不足

- ① 月の入居者ミーティングを利用しA4 1枚程度の健康アドバイスをを行いました。テーマは基本職員が考えましたが、入居者からのリクエストにも応じました。
- ② 祭日を除き職員が毎日出勤できるよう宿直の曜日を見直し、月曜日の宿直を土曜日に変更しました。このことにより基本職員の出勤日は週7日となりました。
- ③ 人員確保については職員募集をしましたが採用にはいたりませんでした。

2 高齢化に伴いグループホームでの生活が困難になる入居者への対応

早い段階から将来の生活をイメージできるように地域包括支援センター等と連携を検討しましたが実現はできませんでした。25年度に引き継ぎたいと思います。

3 日中活動が難しくなっている入居者への対応

国や都の日中活動の制度を調べましたが、人員確保等現在の職員体制では難しいところもあり、今後も引き続き何が出来るかを検討していく必要があります。

4 マニュアルの見直しと整理を行い普段はもちろん非常時にもスムーズに対応できるようにする。

- ① マニュアルの保管場所の見直しを行いました。また、今後は内容の見直し等も行っていきます。
- ② 職員の異動に合わせて入居者担当や各業務担当の見直しを行いました。

2024年度 やまびこ三原荘 事業報告

1, 入居者の状況

- ・ 4月：年度当初定員 17 名に対し満室（2 名入院中）
- ・ ：本体 3 階入居（更生施設から入居）
- ・ 5月：本体 2 階通過型入居者、滞在型サンライズ大泉へ移動
- ・ ：克己マンション入居者入院（精神科 5 月～7 月）
- ・ 7月：本体 3 階入居者退去（入院退去）
- ・ ：本体 3 階入居者退院（精神科 3 月～7 月）
- ・ ：克己マンション入居者退院（精神科 5 月～7 月）
- ・ 10月：サンライズ大泉入居者入院（股関節手術とリハビリ 10 月～1 月）
- ・ 11月：本体 2 階通過型入居者退去（滞在型 GH）
- ・ 12月：本体 1 階入居者入院（精神科年末年始休息入院 12 月～1 月）
- ・ 1月：本体 1 階入居者退院（精神科年末年始休息入院 12 月～1 月）
- ・ ：サンライズ大泉入居者入院（股関節手術とリハビリ 10 月～1 月）
- ・ ：本体 3 階入居者入院（精神科 1 月～3 月）
- ・ ：克己マンション入居者入院（精神科 1 月～2 月）
- ・ 2月：本体 3 階入居者退去（自宅退去）
- ・ ：克己マンション入居者退院（精神科 1 月～2 月）
- ・ 3月：本体 3 階入居者退院（精神科 1 月～3 月）

◆ユニットごとの入居者数

月 ユニット	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
通過 本体2F (4)	3	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1
通過 本体3F (4)	4	4	4	4	3	3	3	4	4	4	4	3
滞在型 (9)	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
計 (17)	15	15	15	15	14	14	14	15	14	14	14	13

※（ ）内は定員

◆性別・年齢別 平均 54.6 才（2025. 3. 31）

	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	計
男	0	1	4	4	0	9
女	0	2	0	2	0	4
計	0	3	4	6	0	13

◆障害支援区分

区分なし	1
区分 2	8
3	4
4	

◆入居前の住居

	全体	うち新規入居
単 身	4	0
入 院	5	1
家族と同居	2	0
入所施設	2	1

◆日中活動

就労継続支援A型	0
就労継続支援B型	5
精神科デイケア	5
精神科OT	1
就労（障害者雇用）	0
地域生活支援センター	0
なし	2

2、事業の実施状況

1 生活の安定・向上

（1）個別支援計画の作成とモニタリング（定期面談）

新規入居者の入居前モニタリングや個別支援計画の作成、6 ヶ月ごとに計画の更新を行う。

（2）個別相談

計画どおり、全入居者に原則として週1回居室で支援記録の確認と同時に相談を行った。状況や必要に合わせて事務所で行うこともあった。

（3）関係機関との連絡・連携

連絡票は必要に応じて作成し関係者と情報交換を行った。その他カンファレンスを実施し関係者との連携を行う。

（4）生活支援

- ・金銭管理：現金等の預かり＝5名。（内1名は通帳とカードのみ）
- ・服薬指導：服薬確認2名、その他の入居者にも受診や訪問看護と連携を行った。
- ・その他、必要に応じて買い物、受診、清掃の支援を行った。

（5）健康診断とそれに合わせた対応

11～12月に江洲クリニックにて健康診断を行った。入居者10人。その他の入居者は個人で申込んで健康診断を行った。

（6）家庭との連絡・相談

必要に応じて入居者の生活上での課題等を家族と共有し対応を連携した。

（7）顧問医との相談

毎月オンラインで入居者の状況報告とアドバイスを受けた。

（8）食事サービス

夕食サービス（火曜日・木曜日）、朝食サービス（木・日曜日）昼食サービス（土曜日）を行いました。利用人数は6～12名程。

（9）余暇支援

PCを使い動画鑑賞、散歩、外食、買い物への同行などを行った。

（10）退居への準備

退居への期限が近くなった入居者に対し、他の事業者所の滞在型や軽費老人ホーム等の情報提供や関係者とケースカンファレンスを実施する等の支援をしました。

（11）退去者への支援

退居者の状況に応じて、主に電話相談等に応じた。

3、入居者どうしの良好な関係づくり

(1) 入居者ミーティング

感染症対策をとり、毎月最終火・木曜日に小グループに分かれ交流室にて実施した。

(2) ユニットミーティング

必要に応じて実施した。共有スペースの使用時間の確認、掃除当番の見直しやトラブル時の話し合いを行いましたが、入居時にできていないユニットもあった。

(3) 食事会

7月に季節感を出すため夕涼み会を行った。今年は、外食組と交流室で花火などの映像を見ながら料理を食べる組に分かれて行う。

(4) 誕生会

誕生会を感染対策として小グループに分けて第2火曜日にお祝いした。1年間で10回実施。

(5) レクリエーション行事

12月小グループ活動をカラオケ班（入居者3名）と映画班（入居者4名）に分かれて実施。久しぶりの開催だったことや高齢化もあり入居者の参加が少なかった。今後は入居者が参加しやすいように工夫し、より多くの人が楽しめるようにしていく必要がある。

(6) ミニレク

8月に入居者3名と職員で練馬区主催のボッチャ大会に参加する。

4、住環境の維持・改善

(1) 建物及び敷地内の維持管理

退去のため201・204・301とサンライズ大泉105クリーニングを行った。

(2) 近隣住民などとの近隣との良好な関係作り

喫煙所の使用時間を7:30~20:00で継続しています。入居者へは毎月の入居者ミーティング等にて利用時間の確認を行っています。夏に喫煙所で水まきを頻繁に行う入居者おり、その水が隣の住居の庭に流れてきて困るとのことがあった。この件で水道の蛇口の管理は職員が行うことに決め、近隣宅に謝罪と今後の対策を伝えた。

その後はトラブル等はなく近隣住民への挨拶を心がけて良好な関係作りに務め町会への加入も継続しています。

5、関係機関との連携

(1) 入居者状況の連絡

必要に応じて関係者へ入居者状況の連絡やカンファレンス等を行った。

(2) 地域内連絡会などへの参加

保健相談所が主催する地域関係者連絡会、練馬区共同ホーム連絡会、東京都共同ホーム連絡会、練馬区障害福祉サービス事業者連絡会、きょうされん等に参加可能なものについては参加した。

(3) 「もうんてんえこお」による広報活動

近況報告や三原荘の様子等を記事に掲載し広報活動に努めた。

(4) やまびこの会後援会

夏季商品販売とカレンダー販売に協力した。

6、 非常災害時の対応

6 と 12 月に自動火災報知器と通報装置の点検を行った。点検に合わせて、火災時を想定した消火器訓練を行った。12 月の点検では 3 階誘導灯の交換を行う。

7、 運営体制

1. 運営会議

理事会、評議員会、責任者会議、三原荘支援会議、合同職員会議、三原荘スタッフ会議は状況に応じて計画どおり行いました。

2. 苦情解決体制

10 月、第三者委員による聞き取りを面談希望者全員に行ない 7 名の面談を行った。

3. 研修

実施機関	内容・テーマ
練馬区人材育成・研修センター	移動支援サービスの基礎知識 合理的配慮と共生社会の実現 当事者から考える「クレプトマニアからの脱却」とは？ 大人の発達障害～特性の理解と対応 障害福祉サービス等事業者に対する経営管理研修 サービス管理責任者実践研修
練馬山彦福祉会	虐待防止研修

4. 第三者評価

2022 年度（株）日本生活介護にて実施。

次回 2025 年度予定

2024 年度 3 所相談支援事業所 振り返り

1. コロナ収束後の問題に対応しました

2020 年 4 月 7 日の緊急事態宣言発出から約 3 年後、コロナは 5 類感染症へ移行して元の生活に徐々に戻り始めてきましたが、5 類に移行して 1 年が過ぎても、感染が怖くて外出できない・咳をした際に注意を受けて公共の交通機関を利用できない・後遺症が残った家族が家から送り出せないなど様々な理由で作業所や短期入所を再開できなくなった利用者が一定数おり、対応が求められた 1 年でした。

2. 高齢化への対応が増え始めています

高齢化により身体機能の低下がみられ、今までと同様に生活を送ることが難しくなってきた利用者・家族が増えています。障害を持つ子の面倒を見ることができなくなり施設やグループホームを探したり、高齢の親を介護保険に繋げるなど家庭全般の支援が必要になるケースもあり、介護分野と連携して支援する機会が増えつつあります。

今後、介護保険へ移行する利用者が増加するため、介護保険に関する情報を得たり障害福祉サービスとの違いを知ることが必須となっています。

3. モニタリング実施に努めました

障害福祉サービスを利用する際にはサービス等利用計画の作成が欠かせないため、特に繁忙期においてはモニタリングよりも計画作成を優先しなくてはならない現状があります。モニタリング実施後の報告書作成や請求事務の遅れなど課題は残りますが、計画的に取り組むことにより徐々にモニタリングの実施件数を増やすことができるようになりました。

4. 統合について検討し話し合いを重ねてきました

Zoom ミーティングの定着・事業日誌の統一に続き、個別管理表の記入方法や支援における集計の取り方の統一を図り準備を進めました。また、練馬区へ相談した回答について話し合い、統合した場合のイメージを膨らませてきました。

今後、具体的な案を持って職員会議や理事会への提案を考えています。

5. その他（現状等）

- ・練馬区から個別避難計画作成の依頼を受けました。25 年度からは相談支援研修のファシリテーターの協力依頼もあり年々、相談支援専門員に求められる事柄が増えてきています。
- ・関係機関の担当者は数年で異動するため利用者・家族との関係性が一番長い相談支援員が頼られることが増え、業務の幅が広がると同時に地域課題に気づくことが増えています。
- ・居宅介護サービス（家事援助や移動支援）の制度は、人手不足で支援を受けられなかったり、対象障害種別や障害の重さによって対象者や時間数が決められており、必要な人が必要な時に支援を受けられず、利用しづらい状況があります。また、短期入所も同様に、施設が不足していたり、職員の人手不足により利用したい時に利用できない状況があり、使い勝手の悪さを感じています。

- ・障害分野に民間会社が参入するようになってから、強引に自社のサービスを勧めたがる事業者が見受けられます。そのため、相談支援事業所としては利用者本位で慎重に勧めて欲しいと伝えることが増えています。

練馬山彦福祉会 相談3事業所 2024年度事業報告案

- I 事業種別** 指定特定相談支援事業
- II 名称**
- | | |
|-------------------|------------|
| 山彦相談支援事業所 | 1332002979 |
| やまびこ第二相談支援事業所 | 1332002987 |
| ワークショップ石神井相談支援事業所 | 1332002995 |
- III 設置運営主体** 社会福祉法人 練馬山彦福祉会
- IV 主たる対象者** 精神障害者 知的障害者 身体障害者 *18歳未満の者を除く
- V 事業規模** (年間登録者数)
- | | |
|-------------------|-----|
| 山彦相談支援事業所 | 70名 |
| やまびこ第二相談支援事業所 | 91名 |
| ワークショップ石神井相談支援事業所 | 66名 |
- VI 職員構成**
- | | | |
|----------|------------|-------|
| 山彦相談 | 相談支援専門員 2名 | 管理 1名 |
| 第二・ワーク相談 | 相談支援専門員 1名 | 管理 1名 |
- VII 事業内容**
- サービス提供日数
- | | |
|-------------------|------|
| 山彦相談支援事業所 | 241日 |
| やまびこ第二相談支援事業所 | 241日 |
| ワークショップ石神井相談支援事業所 | 241日 |
- サービス提供内容
- (1) 利用者からの日常生活全般に関する相談業務 (事業者等の情報提供)
 - (2) サービス等利用計画の作成に関する業務
 - (3) 継続的なモニタリング業務
 - (4) 福祉サービス事業者等との調整など必要に応じた業務
- VIII 支援**
- 【障害別支援状況】 別紙
- 【支援内容の状況】 別紙

【サービス等利用計画の作成】

利用者の不安や意向により添いながら信頼関係の構築を図りました。

利用者の生活状況や家族関係等を把握し、利用者と家族の意向に相違がないか確認し、関係者の意見を参考に課題を抽出してサービス等利用計画を作成しました。

作成した計画内容については関係者間で共有を図りました。

【モニタリング】

障害福祉サービス等の利用状況や利用中のサービスが適切であるかどうか等を確認し、事業者や支給決定機関等への連絡調整・サービス担当者会議の開催等で共有を図り、必要に応じて利用者の状態や環境に合った障害福祉サービスへの見直し（支給量の変更など）を行いました。また、支給決定機関と相談しながら利用者個々の状況に合ったモニタリング期間の短縮を行い状況把握に努めました。

【直接的な支援】

サービスに当てはまらない支援を相談支援員が担うことは少なくありません。利用者の重度化、家族の高齢化などに伴い次の受け入れ先が見つけれなかったり家族への支援が必要になることもあり緊急性や深刻度は増しています。

（事業所見学の同行や実習の日程調整、ショートステイ利用の日程調整、移動支援や家事援助のヘルパー探し、グループホームや入所施設探し、資産申告の補助、介護保険に関する情報提供や利用者・家族を介護保険に繋げる手続き、利用者や母親の同行通院、地域包括の訪問時の同席、転居後の支援、買い物支援、ゴミ出しなど様々な支援を行いました）

【情報提供】

新たな福祉サービスの利用や変更を希望する利用者・家族に対して必要な情報を提供し関係者と相談しながら見学の同行等を行い、福祉サービスの利用に繋がりました。また、訪問マッサージや配食等、福祉サービス以外の支援が必要と思われる利用者に対しては提案・説明・利用開始に関する調整を行いました。

利用者や家族の希望に添った事業者を探す際は、関係機関から意見を聞きながら安心して託せる事業者が慎重に選定して紹介するよう努めました。

【記録】

利用者や支援者からの連絡を記録し、サービス担当者会議等で共有を図り次の目標の指針としました。サービス担当者会議の内容を記録し、参加できなかった支援者に配布しました。

【秘密保持】

サービス提供をする上で知り得た利用者およびその家族に関する秘密を正当な理由なく第三者に漏らさないことを徹底し、信頼関係を構築し相談しやすい環境作りを行いました。

IX 緊急時・非常災害の対応

法人内の作業所と連携しながら防災計画に沿った避難訓練に参加しました。

X 運営

1. 職員会議

日々の活動の点検や改善、事業計画の実施をはかるため定期的に下記の職員会議に参加しました。

相談支援事業所の今後については、引き続き検討を重ねています。

3 相談支援事業所合同会議……………第1・3火曜日

3 所相談支援Zoomミーティング……………毎週月曜の朝

法人内での全事業所会議……………第2水曜日

中・長期計画会議……………第2水曜日

各所の事業所会議、支援会議、まうんてんえこお会議 等々

2. 苦情解決

苦情の報告はありませんでした。

3. 虐待の防止

利用者の人格を尊重する視点に立ったサービスを行うよう努め、研修に参加しました。

4. 地域関係機関等との連携

- (1) 練馬地区相談支援従事者会・相談支援事業者全体研修会にて情報提供を受けたり事例検討等を行いました。
- (2) やまびこの会後援会と連携を図りました。
- (3) 法人内での地域交流（バザー等）に参加して地域住民との交流を深めました。

5. 研修

事業の運営や支援力向上のために必要な研修を積極的に受けました。研修報告書の作成は行っていますが、共有に至りませんでした。

強度行動障害の研修終了後は、山彦相談支援事業所でも支援体制加算の取得が可能になりました。

受講した研修

- ・法人内虐待防止研修
- ・相談支援従事者初任者研修（法人内で1名受講）
- ・強度行動障害 実践研修
- ・相談支援従事者会における研修
- ・「親なきあと」信託会社主催オンラインセミナー
- ・「精神保健福祉関連の法や制度に関する基礎知識」中部総合精神保健福祉センター
- ・「相談援助職の記録の書き方」中部総合精神保健福祉センター

6. 今後に向けた動き

昨年度、練馬区からの返答を受け、3か所の相談支援事業所が兼務先に負担をかけず事業所間で助け合いながら効率よく運営できる方法について話し合いを重ねてきました。書式の統一に続き24年度は実践面での統一に向けて、利用者支援の進捗状況を把握するための個別管理表の記入方法や業務の統計の取り方などの確認を行い統合のイメージを膨らませてきました。

6年ごとに事業所の更新があり今年12月がその時期にあたります。更新の時期を目途に新体制を目指せるよう、年度の中間期には職員会議や理事会に具体的な提案を行う予定です

7. その他

- ・兼務として相談員は、各作業所に一定時間勤務をしました。

（下請け作業・公園清掃・弁当作業・レクや行事への参加・健康診断の同行・留守番

- ・まうんてんえこおの編集・後援会事務局への参加など）

- ・やまびこ三原荘の当直を行いました。

- ・やまびこ第二相談支援事業所は、長期・社会的入院者への退院の促進として、「こらーるたいとう」（台東区にある当事者を中心とした就労継続支援B型事業所(NPO法人))が行っている陽和病院への「ゆうあい訪問」に参加をしました。

2024年度チャレンジワークやまびこ 事業の振り返り

■2024年度全体を振り返って

前年度は、一般就労者2名という実績がありました。診断だけでは捉えきれない困難を抱える方が増加する中、障害や雇用に関する研修を通じて知見を深め、支援に活かす取り組みを継続してきました。

また、地域ボランティアの受け入れやソーシャルファームの見学、職業センターへの調査協力など、新たな連携も進んだ一年となりました。

2025年10月から実施予定の新制度に関する動向把握や、企業との意見交換も積極的に行い、地域との関係性や支援の在り方について改めて考える機会が多く得られた一年でもありました。

■2024年度の課題とそれに対する取り組み

1, 地域とのつながり強化

① ボランティア受け入れ

区主催の地域活動マッチングイベントを通じて、ボランティア活動に関心を持つ方々と「働くこと」をテーマに、4名の方と計8回にわたり、学習会や健康プログラムなどで協働活動を行いました。

活動内容は、職場を想定したSST（ソーシャルスキルトレーニング）や感情コントロール、哲学対話、社会資源の学習など多岐にわたり、参加者と共に学び語り合うことを通じて相互理解を深めました。

メンバーにとっては職業生活への意欲向上につながり、地域の参加者にとっても、当事業所を地域の社会資源として知っていただく良い機会となりました。参加者からは意欲的な感想が多く寄せられ、全員が活動の継続を希望されています。

② 特別支援学校からの受け入れ（職場体験・就労アセスメント）

就学生の雇用への関心が高まる中、都立盲学校からの職場体験や、区内の特別支援学校に通う生徒の就労アセスメントなど、さまざまな学校からの相談・受け入れの機会が年々増加しています。

こうした動きから、地域における当事業への期待の高まりを日々実感しています。

2, 就労支援の専門性を高める

新たな働き方の一つとして、障害を持つ方や就労に困難を抱える方が他の従業員と共に働く「ソーシャルファーム（社会的企業）」を見学しました。

これにより、一般就労や福祉的就労支援に加えて、新たな雇用のあり方や支援の可能性について考える機会となりました。

2024年度チャレンジワークやまびこ事業報告

1. 事業規模

■利用者■

(1) 入退所状況

入所者：男性1名

退所者：男性3名（一般就労2名、B型事業所1名）

(2) 性別・年齢別 ※平均年齢 29.8 歳（24 年 3 月 31 日現在）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	1	2	1	0	0	0	4
女	0	0	0	1	0	0	1
計	1	2	1	1	0	0	5

(3) 障害支援区分

区分2→1名 区分3→2名 未取得2名

(4) 通所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平均通所者数	5.1人	4.2人	4.3人	3.9人	3.8人	4.3人
通所率	84.9%	83.8%	85.0%	77.2%	76.6%	85.2%
稼働率	84.9%	69.8%	70.8%	64.3%	63.8%	71.0%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均通所人数	4.3人	3.7人	3.6人	4.6人	4.3人	4.3人
通所率	70.4%	77.0%	71.0%	92.6%	85.5%	85.0%
稼働率	70.4%	64.1%	59.1%	77.1%	71.2%	70.8%

2024年度 平均通所者数 4.2 人 通所率 81.1% 稼働率 69.7%

2. 支援内容

1 個別支援

個別支援計画作成においては事前面談を実施し、各々の課題や目標を明確にして計画に落とし込みました。また現場では個別支援計画をもとに本人の夢や希望、やりがいや生きがいを意識して支援に取り組みました。

3か月ごとに振り返りを実施し、それぞれの目標の達成度や現況の確認、必要に応じて支援内容を変更しました。また会議を通して職員同士で情報の共有を行い、利用者との関係構築に繋がるように対応しました。

3. 就労支援

1. 就職支援

・ミーティング、振り返り、1人一言などコミュニケーションを行う場を多く設けその能力の向上に努めました。ここは訓練の場なので間違いから学ぶ大切さを大事に支援してきました。

(1) 就職支援

・各種プログラムに加えスーツを着用して会社見学等に行く機会を設けて就労意欲を向上させるよう努めました。

・集団面接会や個別面接に同行し利用者のサポートを行いました。

(2) 就労実習

・職場実習に6名参加をしました。

(3) 定着支援

・就労後も連絡を取り合い会社での面談等含め状況把握に努めました。

・問題や困りごとがあったときは関係者と連絡を取り合い情報共有に努めました。

2. プログラム内容

- ・事務系・・・郵便物仕分け・封入作業・シュレッダー・シール貼り・コピー・ファイリング・スキャン・テプラ打ち込み等
- ・パソコン系・・・PC入門・タイピング訓練・ワード入力・エクセル入力・伝票修正・ミスチェック・アンケート入力等
- ・清掃系・・・各フロア・階段・トイレ清掃等
- ・軽作業・・・倉庫管理・備品管理・農作業
- ・就活・その他・履歴書作成、面接練習、通勤訓練、自己理解シート作成
- ・集団・・・SST・ウォーキング・アイスブレイクゲーム・ビジネスマナー・面接訓練・コミュニケーション訓練・各種振り返り・座学等
- ・法人内業務・・・夏季商品販売業務・カレンダー販売業務・やまびこの会後援会発送業務

4. 生活支援

1 健康管理

・毎朝プログラム前にラジオ体操を行い、集団プログラムではウォーキングを取り入れ健康維持に努めました。

2 行事

参加行事：バスレク、地域交流事業「わくわくフェスタ」

5. 非常災害の対応

1 非常災害時の対応

- ・避難訓練 利用者も参加の上、年2回実施しました。
- ・定期的に消防点検を実施（電気設備も定期的に点検）
- ・防災対策 水・簡易食料・毛布・ラジオ・発電機等、災害時を想定し準備

- ・夜間監視業務 総合警備保障（株）による夜間機械警備
- ・災害時伝言ダイヤルの実施訓練 1 回

6, 運営

1 会議

- ・法人全体職員会議は、基本的には対面で実施しました。
- ・所内会議、支援会議は支援計画の確認や情報の共有、行事等の支援体制の確認のため定期的に実施しました。

2 虐待防止

- ・別途定める「虐待防止マニュアル」に則り、利用者の人権を最大限に尊重し、適切な事業運営をおこないました。また法人虐待防止委員会を中心に、各所に研修担当を置き、法人内研修を実施しました。

3 広報・情報公開

- ・法人、事業所、利用者、障害者を取り巻く社会情勢など広く知って貰うことを目的に機関誌「まうんてんえこお」を定期的に発行。

4 地域との連携

- ・区地域活動マッチング企画を通じて、地域ボランティア 4 名の方と 8 回にわたり「働くこと」をテーマに協同企画を実施しました。
- ・練馬区と連携を深めることを目的に練馬区主催の会議に参加、区内共同支援の始動
- ・ハローワーク、東京しごと財団、東京都障害者職業センター、障害者地域生活支援センターなどの関係機関主催の研修参加や情報交換を行いました。
- ・石神井・大泉ブロック地域精神保健関係者連絡者会に参加しました。
- ・練馬区障害者就労支援センターが主催する会議や研修に積極的に参加しました。

6 就労アセスメント、職場体験の受け入れ

就労アセスメント	: 11 名
職場体験	: 3 名 （八王子盲学校 2 名、練馬特別支援学校 1 名）

7 職員の研修体制

- ・支援上必要なスキル向上と運営に必要な加算につながる研修を中心に、東京障害者職業センター・東京都福祉保健局・ハローワーク・レインボーワークやワーキングトライ等の研修に積極的に参加しました。

8 補助金の活用

- ・事業推進に必要な機材の購入に助成金の申請をしています。機器の充実を図り、より実践的な就労環境の整備を目指しています。